学会・研修参加報告

平成26年度　日本医療薬学会主催「がん専門薬剤師海外研修事業」に参加して

北里大学病院薬剤部
佐々木寿子
Hisako Sasaki

はじめに

2014 年 5 月 29 日（木）～6 月 7 日（土）までの 10 日間にわたり，日本医療薬学会主催「がん専門薬剤師海外研修事業」に参加させて頂きましたので，ご報告致します．

報告内容

本研修は 5 日間の米国臨床腫瘍学会への参加，および 2 日間の University of Michigan Hospital and Health Centers における病院研修の日程で行われた．

1. 第50回米国臨床腫瘍学会（2014 年 5 月 30 日～6 月 3 日開催）への参加について

本学会は臨床腫瘍領域における世界最大規模の学会で，特に今年は第 50 回開催という節目の年にあたり，世界各地から医師，薬剤師，看護師が参加していた．

学会は標準治療となり得る臨床試験結果が発表されるプレナリーセッション，各種がん領域および緩和・支持療法の口頭セッションやポスターセッション，前日に注目された発表のハイライトセッションで構成されていた．

写真 1　第 50 回米国臨床腫瘍学会会場

プレナリーセッションでは，「CALGB/SWOG 80405 試験：切除不能大腸癌の 1st-line における Cetuximab 併用療法と Bevacizumab 併用療法の安全性と有効性を比較した第 III 相試験」（Abstract ＃ LBA3）が報告された．本試験の主要評価項目は OS，副次的評価項目は PFS であり，中間解析の結果は OS の中央値は Bevacizumab 群 29.0ヵ月，Cetuximab 群 29.9ヵ月（観察期間中央値 24ヵ月）となり有意差を認めなかった（HR = 0.925, 95％ CI: 0.78-1.09, p = 0.34）という報告がなされた．この発表は後日のランチョンセミナーの話題としても

取り上げられており，標準治療となり得る結果を生み出す臨床試験の難しさを感じた．また，緩和・支持療法領域のセッションでは，悪心・嘔吐，口腔粘膜炎症状への対応，ホットフラッシュの予防投与，末梢神経障害軽減への取組みなど，常日頃から対応に苦慮している有害事象への様々な対策や新規薬剤の発表がされていた．どのセッションにおいても発表の区切り毎にディスカスタントによる振返り・評価が行われるため，様々な視点から発表内容を理解することができ有意義であった．

さらに，企業ブースではレジメンチェックシステムを紹介して頂き，腎機能・体表面積の算出方法，各レジメンにおける投与規制基準の設定，根拠となった臨床試験結果の閲覧などについて説明を受けることができた．システムを効率よく使用し，医療安全に努めている姿勢を垣間見ることができた．

2. University of Michigan Hospital and Health Centers における研修（2014 年 6 月 4 日〜5 日）について

本病院での研修は 2 日間での日程で行われ，両日ともに午前はがん専門薬剤師の病棟活動に同行し，午後はがん専門薬剤師からの講義および見学というスケジュールが組まれた（**表 1，2** 参照）．がん専門薬剤師からの講義は，貧血マネジメントおよび学生教育，外来活動およびオーダリングシステム，臨床研究センター，内服抗がん剤指導と支持療法，副作用症状マネジメントクリニック，抗がん剤調製室および外来治療室の 6 項目について行われた．

写真 2　ミシガン大学病院薬剤師とともに

ミシガン大学病院には貧血治療を主目的とした外来があり，薬剤師は抗がん剤調製室および外来治療室の業務として患者からの電話相談を受けたり，がん化学療法や腎疾患による貧血治療に関する薬物治療ガイドラインの作成を行っていた．米国は皆保険制度が導入されていないため，患者が加入している保険により EPA 製剤の適応か否か，輸血療法のみの適応かなど治療の選択肢が限られてしまうことから，薬剤師が限られた選択肢から適切な薬剤を推奨することが求められるとのことであった．また，副作用マネジメントクリニックでは，医師は常駐せず，薬剤師と看護師が中心になり患者から副作用症状や疼痛コントロールの状況などを聞き取り，必要に応じて医師にフィードバックするという体制が取られていた．これは本邦の一部の施設で導入されている薬剤師外来と共通する部分があるように感じた．

がん専門薬剤師の病棟活動見学では病棟回診に同行した．病棟回診では医師，看護師，栄養士，ソーシャルワーカー，薬剤師とあらゆる医療スタッフが揃って綿密なディスカッションを行い，治療方針を確認・決定，各種オーダをその場で終了させるという流れを見ることができた．各職種がその職能を発揮している場面が多く，その中で薬剤師は医師の指示に応じた適切な薬剤と投与量の設定，栄養士との TPN 療法における薬剤の検討，看護師との有害事象に関する情報交換などを行っていた．決して他職種のフィールドに踏み込むことなく，お互いの職能を尊重したディスカッションになっていた．それは，患者との面談中も同じであり，患者からの質問に対して，その内容に適した職種が回答するというスタイルが自然と成り立っていた．

病院研修全体を通して，全ての医療スタッフが横一列に並んで患者を支えているという図式を思い浮かべることが出来た．米国と本邦では，医療スタッフを育てる教育体制などが異なるため，この図式をそのまま導入することは難しいのではな

表 1　研修スケジュール 1 日目

Time	Event
4-Jun-14	
8:00am	Meet at Information Desk, get ID badges, and escort to Pharmacy Services
8:15-9:00am	Welcome, introductions, review of itinerary
9:00am-12:00pm	Rounds with clinical pharmacists 1. Bone Marrow Transplant 2. Inpatient Hematology/Oncology 3. Inpatient Hematology/Oncology
12:00-1:00pm	Lunch - introduction of visitors and discussion of oncology pharmacy practice in Japan
1:00-2:00pm	Discussion of pharmacists role in anemia management and utilizing students for medical reconciliation in the Cancer Center
2:00-3:00pm	Establishment of Ambulatory Oncology Pharmacy Services/Oncology Computerized Physician Order Entry (CPOE)
3:00-4:00pm	Investigational Drug Services

表 2　研修スケジュール 2 日目

Time	Event
5-Jun-14	
7:50am	Meet at Information Desk, get ID badges, and escort to Pharmacy Services
8:00-9:00am	Review of University of Michigan Health System Department of Pharmacy Services
9:00am-12:00pm	Rounds with clinical pharmacists 1. Bone Marrow Transplant 2. Inpatient Hematology/Oncology 3. Inpatient Hematology/Oncology 4. Pediatric Hematology/Oncology 5. Gynecology/Oncology
12:00-1:00pm	Lunch - and discussion regarding education of oncology pharmacists in the U.S.
1:00-2:00pm	Review of Clinical Pharmacy Services
2:00-3:00pm	Oral oncology program ＆ supportive care and symptom management clinic
3:00-4:00pm	Review of Cancer Center ＆ tour of Cancer Center Infusion Pharmacy

いか，また，テクニシャンの存在など薬剤師が患者と向き合える時間にも差があるのではないかということも感じた．しかし，薬剤師の活動や役割に違いはなく，本邦の薬剤師活動の長所とその役割を再確認することもできた．

最後に

今回の研修では，新規あるいは既治療の様々な臨床試験の結果が発表される場面や，それが臨床応用されている現場を直接見ることができ，大変充実した研修となりました．

本研修に参加する機会を与えてくださった医療薬学会の諸先生方，また，団長として同行して頂きご指導頂きました今村知世先生，共に研修に参加させて頂いた内田まや子先生，祝千佳子先生，熊澤里美先生，さらにミシガン大学にてご指導頂きました薬剤部の諸先生方に厚く御礼申し上げます．そして，本研修への出張を許可して頂きました病院長，薬剤部長をはじめ，お忙しい中，出張に行かせて頂きました薬剤部の皆様方に御礼申し上げます．